

## ● 地域提案型

## 平成20年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	インドネシア
2. 事業名	マカッサル市 市民参加型廃棄物管理推進事業
3. 事業の背景と必要性	マカッサル市では、急速な都市化や人口の増加、行政の組織・財政基盤の脆弱性等の原因により、適切な廃棄物管理がなされていない状況である。その結果、河川や運河、道路に散在する廃棄物の量が増加し、環境・衛生面で深刻な問題を引き起こしている。また、既存の最終処分場の容量も逼迫するなど、早急に廃棄物管理システムを改善する必要がある。 このような状況下、マカッサル市は、北九州市および（財）北九州国際技術協力協会（KITA）等の協力により、スラバヤ市において実施し、大きな成果を挙げている住民参加型廃棄物管理手法（北九州方式）を導入するとともに、市民への啓発活動、環境教育を強化することにより、同市で発生する廃棄物の適切な処理の促進を図り、もって、住民の生活・衛生環境の改善、環境保全に寄与することを計画しており、北九州市に協力の打診があった。北九州市は廃棄物管理や環境教育に関する多くの経験と技術を有しており、これを活かして技術協力を行うものである。
4. 事業の目的	1. 行政、市民、NGO等が協働する廃棄物管理システムを構築し、ごみの減量化・資源化、収集運搬の効率化等を図ることで、コミュニティの衛生環境を改善する。 2. 環境教育やリサイクル活動を通じ、市民の廃棄物管理や環境保全に関する意識の向上を図る。
5. 対象地域	マカッサル市内全域
6. 受益者層	マカッサル市民
7. 活動及び期待される成果	1. モデルコミュニティを選定し、住民による廃棄物管理組織（婦人会などが中核となることを想定）を結成させる。 2. 北九州市から専門家を派遣し、ごみの収集運搬方法の改善を行い、廃棄物管理をより効率化させる。 3. 生ごみ堆肥化技術、ごみバンク活動（コミュニティ単位の有価物回収運動）を導入することで、ごみの減量化・資源化を促進し、市民の生活環境の改善を図る。 4. 市場からの生ごみを堆肥化するコンポストセンターに対応した専用の堆肥化技術により、新しいシステムが構築される。 5. コミュニティ住民が、廃棄物管理に主体的に取り組むことができるように環境教育を実施する。
8. 実施期間	平成21年9月～平成22年3月
9. 事業の実施体制	北九州市環境局が連絡調整機関となり、KITA等と協力しながら、事業を実施する。
II. 実施団体の概要	
1. 団体名（提案自治体）	北九州市環境局（福岡県北九州市）
2. 対象国との関係、協力実績	平成20年8月に北九州イニシアティブネットワークの事業としてスラバヤ市において開催された廃棄物管理ワークショップ（主催UNESCAP）にマカッサル市副市長が参加後、スラバヤ市の廃棄物管理の成功事例の同市での展開に係る協力の打診があった。